

司法試験合格者体験談

受験回数：1回目

既修・未修の別：未修

田中一真

私は、司法試験に向けた勉強を行うにあたって、①量より質を高める、②基礎・基本を徹底する、③法科大学院を活用するという3つの勉強方針を立てていました。

このような方針のもとで、短答と論文のそれぞれの勉強を行うにあたり、以下のような勉強法をとっていました。

まず、短答の勉強についてです。私は、憲・民・刑いずれについても、主として市販の過去問集を利用しました。短答の学習範囲は、どうしても論文の学習と異なり細かな知識にも及ぶため、短答と論文の学習はそれぞれ特質を有すると考えてしまいがちです。しかし、私は短答の学習は繰り返すうちに単調なものになってしまう危険があると考え、どうせ短答の学習を行うならば、時間を効率的に使って短答と論文の学習を関連付けながら同時に行うことを意識しました。具体的には、問題の肢ごとに、仮にこの問題が論文で問われた場合にはどう答案に書くかということを意識して解いていました。この勉強法は、最初のうちは莫大な時間がかかってしまう方法で根気を要するものだと思います。もっとも、単に短答の問題と割り切って解くよりも格段に知識に対する理解が深まって定着度合いが高まり、結果的に忘れにくく論文にも活かすことができる知識にできたと考えています。

次に、論文の勉強についてです。私の論文の学習のベースは法科大学院の授業及び某予備校での講義でした。2年次の2月頃から本格的に司法試験に向けての勉強を開始し、3年次の7月頃までに予備校のインプット講義全てを受講しました。夏休みになると、ひたすらアウトプット講義の問題を解き、論文抽出能力と文章力を養っていました。なお、問題を解く際は、基本的に答案構成で済ませることが多かったです。法科大学院の授業内容は、インプット講義やアウトプット講義を経ていく中で、より理解を深める勉強をする上で大いに役立つものでした。その後、9月末からは他の予備校の答練を受講しました。この答練を受講することで、司法試験レベルの長文の問題に取り組むにあたっての時間配分、問題文の読み方及び文章表現力などを養っていました。そのまま、3月に全国模試を受験し、さらに司法試験延期後の7月にも全国模試を受験しました。答練や模試を通じて、法科大学院の授業や予備校で学んだ内容が十分に通用することを実感することができ、そのまま司法試験本番に臨み合格することができました。なお、私は司法試験過去問を法科大学院のゼミ等を通じて2年分ほどしか解いていなかったため、今になってはもう少し過去問を解いておくべきだったと考えています。しかし、司法試験は相対評価であり、受験生全員が解ける問題は確実に正解することが必要です。このような観点からは、基礎・基本的な問題を押さえ、さらに法科大学院の授業によって理解を伴った勉強ができたことにより、司法試験過去問

を消化量の少なさをカバーすることができたのだと思います。

最後に、法科大学院の授業をしっかりと活用することができれば、司法試験に合格することは十分に可能です。手を広げ過ぎることなく、最後まで基礎・基本を徹底することを意識して頑張ってください。

以上